

# 北海道地区私立図書館協議会 2009年度職員研究集会

12月11日(金)  
北海学園大学 豊平校舎7号館D42教室

大学におけるアカデミック・ライティング指導  
—正規科目と支援機関との連携—

早稲田大学  
佐渡島紗織



# 次第

- I 大学におけるライティング指導
- II ライティング・センターの理念
- III ライティング・センターでの指導
- IV チューターの育成
- V ライティング・センターの運営
- VI 参考文献

# I 大学におけるライティング指導

## 1. 国語教育のあり方に変化

従来の日本における国語教育

＜文学作品の精読＞に力点が置かれてきた

(→豊かな語彙、繊細な言語文化、世界をリードする文芸・文化)

(小中高の国語の先生は、文学者、日本語学者によって育成された)



国語教育に対する社会からの要請は変化してきた

日本語の使用における＜機能的な側面＞にも焦点

(ビジネス界・・・「論理的に」書く、プレゼンテーション能力、「発信力」)

(国際化に伴い、世界標準を意識した国語教育・・・ローマ字教育の意義、外来語の問題)

# I 大学におけるライティング指導

## 2. 大学教育のあり方に変化

(1) <内容>から<方法>を重視した教育へ  
教員から専門的な「情報を教示してもらう」



優れた図書館システム、インターネットの発達により  
情報は自力で得られる  
得た情報の再構築が問題

(2) <研究室単位>から<明示的・系統的な>指導  
「教授の後ろ姿から」学ぶ、先輩が後輩を個別指導する



カリキュラムに組み込む、系統立てて指導する

(3) 学問はやる気のある学生が<自主的に開拓する>もの



全入時代に入り、<学士力の保障> (入口、出口) が意識されるようになってきた



# I 大学におけるライティング指導

## 3. 大学におけるライティング指導

国語教育における機能的な側面—「分かりやすく」書く  
大学における方法領域の教育—「どのようにして」学問をするか  
カリキュラムの中で明示的に、系統的に指導する—任せるのではなく、  
「教える」



- 国語教育、文章教育の専門家によって指導すべき
  - ・・・「書くこと」の指導要素を把握している専門家が教える
- 学問体系の中で位置づけて指導すべき
  - ・・・大学において「書くこと」は、学問をすることとどのように関連するのかを教える
- 系統的に指導すべき
  - ・・・文章の対処療法をするのではなく、明示的にポイントを指導したうえでその活用法を指導する。



# I 大学におけるライティング指導

## 4. 正規科目と支援機関との関係

### **アカデミック・ライティング授業** 型の稽古 **基本**

アカデミックな文章を書くために必要な技能を一つ一つ修練する  
他者の書いた文章を見て、一つ一つの技能について批評することができる

### **ライティング・センター** 立ち会い稽古 **応用**

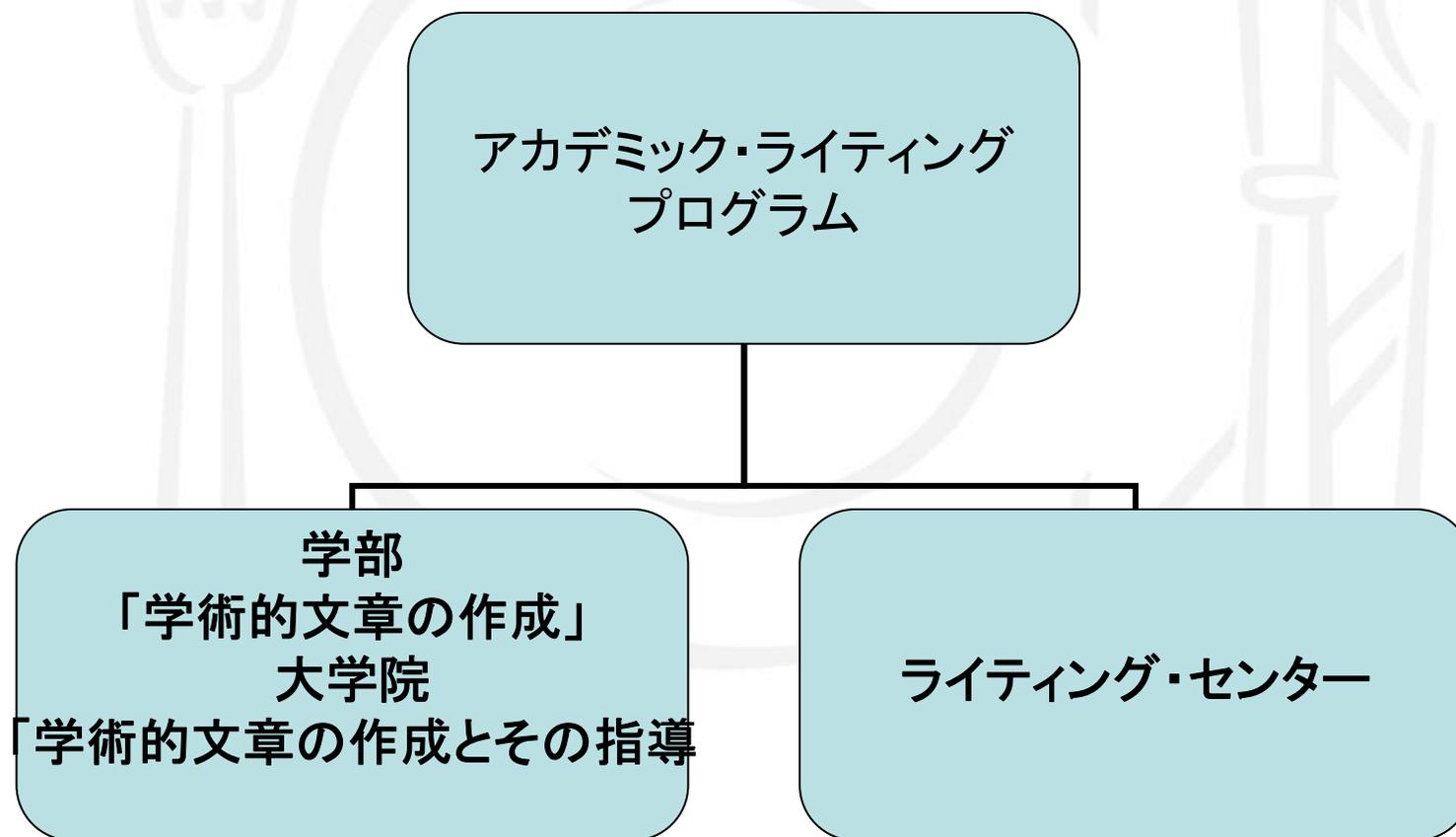
状況に応じて、どの技能を使うべきかを判断する  
どの技能とどの技能を組み合わせる必要があるかを判断する  
他者の書いた文章を見て、状況に応じた修正法をみ出す



# I 大学におけるライティング指導

## 4. 正規科目と支援機関との関係

### 早稲田大学の例



## Ⅱ ライティング・センターの理念

ライティング・センターとは

ライティングを支援する機関  
正規課程外で支援する  
(成績をつけない、単位を付与しない)

アメリカで1950年代より始まった。  
現在は、ほぼすべての大学で定着している。

- スタンフォード大学
- 南カリフォルニア大学
- パーデュ大学
- テキサス大学
- イリノイ大学

ヨーロッパでは一部の大学で運営されている。  
オーストラリアでは「ラーニング・センター」の中に含まれている場合が多い。



## Ⅱ ライティング・センターの理念

ライティング・センターとは

アジアでの広がり

- 韓国
  - ソウル大学
- インド
  - Parvatibai Chowgule College of Arts and Science
- 日本
  - 北星学園短期大学部
  - 東京大学
  - 大阪女学院大学
  - 津田塾大学
  - 上智大学
  - 早稲田大学
  - 他

## Ⅱ ライティング・センターの理念

### どのような支援をするか

1. 個別指導 (30分、45分、60分) セッション
2. 来訪者が、文章または課題を持って訪れる。
3. 一人ひとりのライティング・プロセスに合わせた指導  
いろいろな分野、授業、長さ、段階
4. 大学院生(チューター)が大学生や大学院生を指導する  
教養大学では大学3, 4年生が1, 2年生を指導する  
教員も訪れる
5. その場で、対話によって文章を直していく

## 4. 正規科目と支援機関との関係

どのような文章を指導するか

1. レポート
2. プレゼンテーション原稿
3. 卒業論文、修士論文、博士論文
4. 投稿論文

※ 大学によっては、留学関連書類や就職関連書類を扱う。



## Ⅱ ライティング・センターの理念 個別指導ブース



## Ⅱ ライティング・センターの理念

ライティング・センターを支える三つの理念

- 理念1 Writing as a Process運動  
書くことの「過程」で指導する
- 理念2 Writing Across the Curriculum運動  
領域を横断して書くことを支援する
- 理念3 自立した書き手を育てる  
「紙を直す」のではなく「書き手を育てる」



## Ⅱ ライティング・センターの理念

### 理念 1

Writing as a Process運動

書くことを「過程」で指導する

- 1) どの段階で訪れてもよい。  
構想、下書き、仕上げ
- 2) まだ一行も書いていなくてもライティングは始まっている。
- 3) 同じ課題を何度持って来てもよい。
- 4) 段階によってセッションで使う言語を変える学生もいる。

## Ⅱ ライティング・センターの理念

### 理念2

Writing Across the Curriculum運動  
領域を横断して書くことを支援する

- 1) どんな専門領域であってもライティングに共通する問題がある。
- 2) ライティングは、独立した一領域である。
- 3) チューターは専門領域に精通している必要はない。
- 4) チューターは一読者としての助言を与える。



## Ⅱ ライティング・センターの理念

### 理念 3

自立した書き手を育てる

「文章を直す」のではなく「書き手を育てる」

- 1) 書き手が独りになったときにも文章の修正ができるように指導をする。
- 2) 添削をしない。代わりに書かない。
- 3) 書き手が気付くように、質問をする。
- 4) 書き手に会話の主導権を握らせる。
- 5) ヒントや修正の選択肢を示し、書き手が最終判断をする



### Ⅲ ライティング・センターでの指導 指導光景



## II ライティング・センターでの指導

- 1年生 石川卓也君の場合  
「環境問題」授業（日本語）

宿題：「環境問題に関するテキスト第3章を読み、内容を要約しなさい。そして、今後、我々が環境問題に対してどのように取り組むべきか自分の意見を述べなさい。」

アウトラインの段階

- 要約の仕方を教わった。
- ぼんやりしていた自分の考えが明確になった。

# Ⅲ ライティング・センターでの指導

## ● 2年生 留学生 李 美賢さんの場合

日本語語学授業（日本語）

宿題:「日本の若者の生活で印象に残る事を一つ選んで、様子を書きなさい。」

アウトラインの段階

→ 日本の様子だけを書いていたが、自分の国との違いも書くことにし、内容が整理された。

仕上げの段階

→ どの言葉を片仮名で書くのかが分からなかったが、一緒に辞書で見てくれた。



### Ⅲ ライティング・センターでの指導 来訪者によるセッション評価



# Ⅲ ライティング・センターでの指導

## 来訪者によるセッション評価 —よいセッションより—



1. 「言いたいことがあるのにそれをうまく言語化できない時、チューターとの対話を通して、自分の考えが整理された。」
2. 「すぐに『答』を与えられるのではなく、『考え方』を与えられるので、自分の思考能力を高められた。」
3. 「第三者に読んでもらうことがいかに大切かが分かった。」
4. 「文法的な間違いだけでなく、より分かりやすくするための構成を考えてくれた。」
5. 「日本語的な考え方、イメージで書いてしまっているので、英語的な考え方、イメージからアドバイスをもらえありがたい。」
6. 「一緒に考えてくれたので、助かった。」

## IV チューターの育成

### 1. チューターに必要とされる要件

- 1) アカデミック・ライティングのポイントを知っている。
- 2) 質の高い学術的文章が書ける。
- 3) 文章を見て、学術的文章としての質の高さ(問題)が診断できる
- 4) ライティング・センター特有の指導法を身につけている
- 5) 自身が学術的文章を執筆している。



# IV チューターの育成

## 2. 早稲田大学におけるチューター事前研修(一学期手前)

「学術的文章の作成とその指導」授業の内容

対面授業・15週・2単位

- (1) 言葉と思考の関係
- (2) 思考を明確にする文の作り方
- (3) 思考を明確にするための文同士の接続
- (4) 意図を正確に伝える語の選び方
- (5) 専門用語の定義、外来語の扱い方
- (6) マップを作って論述の中心と範囲を決める
- (7) 文章全体の構成、主張の位置
- (8) 論点の分類
- (9) 抽象度を自覚する
- (10) 効果的な段落の整え方
- (11) 適切な題名のつけ方
- (12) 図や表を使って論じる
- (13) 出典の示し方、参考文献表の書き方
- (14) ブロック引用の仕方
- (15) 要約引用の仕方

- 毎週1000字の文章を提出し、教員がコメントと評価点をつけて個別に返却する。
- 授業で、学習者が互いの文章を読んで相互批評する。
- 成績優秀者は、学部授業の指導員となる資格を得る。
- 教科書 佐渡島・吉野(2008)『これから研究を書くひとのためのガイドブック』



## IV チューターの育成

### 3. 早稲田大学におけるチューターの審査課程

書類審査(五人中、約三人が合格となる)

面接審査(模擬セッションで文章診断力とコミュニケーション能力を審査。)(9割合格)

教務補助(時給1100円)として研修を受ける

- 1) 初期研修(ライティング・センターの理念など5科目、約2時間)
- 2) 実地研修(ベテラン・チューターによるセッションのテープを聴く1回、ベテラン・チューターを見学する4回、自分のセッションをベテラン・チューターに観てもらう5回)

独り立ち審査(合格すると、独りでセッションを受け持つ)

教育補助審査(合格すると一人前のチューターになる、時給2000円)



## IV チューターの育成

### 4. 早稲田大学におけるチューターの育成課程

新人研修に並行して、毎週のチューター・ミーティングでベテラン・チューターたちと共に研修を行う。

#### チューター・ミーティング内容例

- (1) 気づきを促す質問
- (2) 長い論文が持ち込まれたときの対応
- (3) Non-native 学生とのセッション
- (4) 文章の診断
- (5) ブレイン・ストーミングの方法
- (6) セッション対話文字化原稿の分析
- (7) 書式 (引用の仕方、参考文献表の作成、特定の書式)
- (8) 気付きを促す「作業」
- (9) 「困ったセッション」
- (10) ライティング・センター関連文献購読

## V ライティング・センターの運営

### 運営費

#### 早稲田大学の例

1. 2004から2007（現代GP助成金で運営）  
国際教養学部  
国際教養学部の学生だけに開室
2. 2008秋学期から（大学資金で運営）  
大学留学センターに所属  
全学に開室
3. 2009 12月21日から  
大学教務部に所属

## V ライティング・センターの運営

### チューターの募集

- 1) 学内広報誌
- 2) 教務主任会
- 3) 各研究科ホームページ
- 4) 教員からの推薦
- 5) チューターからの推薦
- 6) 大学院進学者に向けての説明会
- 7) 学内外に向けてのワークショップ



# V ライティング・センターの運営

## 文章とセッションの言語

英語文章／日本語文章  
英語で対話／日本語で対話

### 早稲田大学の例

使う言語を学生が選ぶことができる  
四種類のセッションを行っている



日本語文章を日本語で検討する（09春42%）  
日本語文章を日本語教育専門家と検討する（同14%）  
英語文章を英語で検討する（同16%）  
英語文章を日本語で検討する（同28%）

## V ライティング・センターの運営

### 開室時間

1. 1セッション45分間
2. 月曜日から金曜日  
10:45から17:15
3. 学部の授業日と試験期間

<2009春学期>

週のセッション枠 125

指導が行われたセッション数 920

週の稼働率 約 30%~90%

(第1週が30%、中間レポートと期末レポートの時は90%)

# V ライティング・センターの運営

## ライティング・センターの全容



# V ライティング・センターの運営

## 五つの指導ブース



# V ライティング・センターの運営

## 予約システム

- 1) 前日まではオンラインで予約する  
予約時にセッション言語を指定する  
チューターは指定できない
- 2) 当日は直接来室して受付で予約を入れる
- 3) 飛び込みで来てもよい  
チューターが空いていたら受け付ける

※ 初めて訪れる人による、  
「2時間後に提出します。おかしいところを直して下さい。」  
という要望が多い。



# V ライティング・センターの運営

## 当日のスケジュール



限	時間	担当
2限	1st 10:40 - 11:25	J Sakura 大渡 文子 (J.J) OWATARI, Fumiko
昼休み	2nd 11:25 - 12:10	J Sakura 佳 (J.J) REN, Jia
	Lunch Break	
3限	4th 13:00 - 13:45	J Omori マニカローラインリー (J.S) MAHONEY, Caroline Leigh
	5th 13:45 - 14:30	J Omori 畑村 太郎 (J.J) HATAMURA, Taro
4限	6th 14:45 - 15:30	Walk in 竹中 翠 (E.J) TAKENAKA, Midori
	7th 15:30 - 16:15	J Omori Walk in 一木 直人 (J)
5限	8th 16:30 - 17:15	J Omori 月岡 和音 (E.J) TSUKILOKA, Kazune

2月8日(火)

Cancel: 田村 保 (E.J) TAMURA, Suguru  
Cancel: 野澤 舞 (E.J) NOZAWA, Mai  
Cancel: 石山 亮 (E.J) ISHIYAMA, Ryo  
Cancel: 長谷川 愛 (E.J) HASEGAWA, Ai  
Cancel: 川瀬 彩那 (E.E) KAWASE, Sora

# V ライティング・センターの運営

## 組織

早稲田大学09秋学期

1. スタッフ …ミーティング週に1回  
教員 2名 (国語教育、日本語教育)  
助手 5名 (日本語ネイティブ 2名、英語ネイティブ 3名)
2. チューター  
助手 5名  
修士、博士、修了生 計 17名
3. 派遣職員 3名  
(部屋の開け閉め、受付業務、ファイルの管理、人材管理)
4. 大学教務部 職員 4名…スタッフと月2回の定例打ち合わせ

# V ライティング・センターの運営

## 個人ファイルの管理 来訪者一人ひとりのポートフォリオ

- 1) 受付用紙  
(どの教授の何の授業、段階、量、締め切り日、チューター)
- 2) 許可を得て、文章や作業のコピー  
(次のチューターが見るため、研修に使うため)
- 3) チューターによる評価用紙  
(話し合った内容、指導のポイント、残った課題を、次のチューターに伝えるため)



# V ライティング・センターの運営

## 個人ファイルの管理



# V ライティング・センターの運営

## リスク・マネジメント

1. 予約の際、チューターは選べない(カテゴリーのみ)。
2. 受付時に文章を研修に使う同意を得る。
3. チューターは、教員の指導や評価に対して批判的意見を言わない。
4. ブース仕切りの前面は半透明。
5. センターの外で会わない。
6. 事前・事後に文章を見ない。
7. チューターは3セッション以上、連続で指導をしない。
8. 紙媒体のみで指導する。



## VI 参考文献

### 米国ライティング・センター関連 推薦図書

Gillespie, P. & N. Learner. (2004). *The Allan and Bacon guide to peer tutoring, 2nd ed.* New York, NY: Pearson Education.

ライティング・センターの理念に沿った指導を行うことの喜び、苦勞、コツが書かれている。チューターの声が多数掲載されている。

Kinkead, J. A. & J. G. Harris (Eds.). (1993). *Writing centers in context: Twelve case studies.* Urbana, IL: NCTE.

米国12大学のライティング・センターが紹介されている。部屋の見取り図から一日の流れまでを当事者が描写している。

Meyer, E. (1987). *The practical tutor.* New York, NY: Oxford University Press.

「チューター」という立場から、何をどのように指導できるかを追究している。

North, S. M. (1984). The idea of a writing center. *College English*, 46(5), 433-46.

米国でライティング・センターが発足し始めた頃に出され、セッションを巻き起こした論文。



## VI 参考文献

### 早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム関連

- 佐渡島紗織 (2005) 「早稲田大学アジア太平洋研究科における『アカデミック・ライティング』授業—書くことの総仕上げ」『早稲田大学国語教育研究』25、55-65
- 佐渡島紗織 (2006) 「早稲田大学国際教養学部に発足したライティング・センターの運営と指導—国語教育の他分野への貢献」『早稲田大学国語教育研究』26、82—94
- 佐渡島紗織・吉野亜矢子 (2008) 『これから研究を書くひとのためのガイドブック—ライティングへの挑戦15週』ひつじ書房
- 佐渡島紗織・太田祐子・志村美加 (2009) 「日本語母語話者が日本語で英語文章を検討するセッションの有効性—書き手を育てるライティング・センターでの対話」早稲田大学国際教養学部紀要『Global Forum』5、57-71
- 佐渡島紗織 (2009) 「自立した書き手を育てる—対話による書き直し」『国語科研究』66、11-18
- 佐渡島紗織 (2010掲載予定) 「早稲田大学における学術的文章作成授業—2年目における成果と課題」『初年次教育学会誌』2  
「早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム」  
<http://www.cie-waseda.jp/awp/index.html>



## VI 参考文献

ライティング・センター運営者・チューターが集まる研究会

### 2nd Annual Japanese Writing Center Symposium

2010年 2月17日 (水曜日)

午後1時から5時半

6時より 懇親会

早稲田大学26号館

- 研究発表 (セッションについて)
- ポスターセッション (運営について)
- ラウンド・テーブル (話題別小グループ)